

実施条件と正式結果

正式な採点は正規用紙で行い、ここには結果と解釈に必要な条件を転記します。

01 基本情報

対象者ID：	年齢：	歳	実施日：	/	/
検査者：	使用版：	A・B・C・D	前回実施日：		
開始：	時	分	終了：	時	分
中断・休憩：					

02 結果に影響する条件

視聴覚・補助具／教示理解・失語／注意・半側空間無視／移動・介助／覚醒・疲労

確認した点・標準手順から外れた点：

03 正規記録用紙からの転記

標準プロフィール点（SPS）	スクリーニング点（SS）
_____/ 24 点	_____/ 12 点

両指標を足して36点にしない。SSをSPSの半分として計算しない。

年齢別基準*	SPS	SS
39歳以下	19点以下	7点以下
40～59歳	16点以下	7点以下
60歳以上	15点以下	5点以下

* 記憶障害が疑われる範囲。JEED公的資料に基づく。使用版マニュアルでも確認。

課題別の行動観察

正式な得点とは別に、自発反応・所定の促しへの反応・解釈の保留点を残します。

ID：_____ 実施日：____ / ____ / ____ 並行版：_____

課題・観察の視点	自発反応・実際の発言	促し後の反応／その他条件
姓名 顔と姓名の結び付き／取り違い		
持ち物 返却要求の自発性／物・場所		
約束 音への反応／用件の想起・実行		
絵 見落とし／誤って選ぶ反応		
物語（直後・遅延） 取り込み／時間後の再生		
顔写真 再認／視覚認知の影響		
道順（直後・遅延） 位置・順序／移動上の影響		
用件（直後・遅延） 道順中の用事／抜け・順序		
見当識と日付 回答の内容／時間的な見通し		

促しは正式手順に従う。独自の援助を加えた場合は内容と時点を明記し、標準条件の結果と区別する。この表は実施順・教示・採点換算表を示すものではありません。

生活で確かめたい仮説（例：用件は言えるが、開始の合図が必要）：

生活の支援を試す

検査の成績と、支援を使った生活場面の成功を分けて記録します。

ID： 記録期間： / / ~ / /

本人が達成したい用事（いつ・どこで・何をする）：

現状：成功 回 / 機会 必要な声かけ・介助：

試す支援（通知、予定表、持ち物写真、置き場所など一つを具体化）：

成功の定義（例：通知後、自分で予定帳を開き、用件を実行する）：

実施記録：失敗した回も同じ基準で記録

日付・場面	支援を確認したか	自力で完了／援助内容

集計：自力で完了 ____ 回 / ____ 機会 援助して完了 ____ 回 / ____ 機会

翌日・別の場面でも使えたか／続ける・変更する支援：

記入の手引きと資料

「点数が上がった」と「暮らしで使えた」を、どちらも確かめるために。

このPDFでできること・できないこと

日本版の課題構成と得点枠組みに沿い、正規結果の転記、行動観察、生活支援の試行を整理できます。独自の記録補助票であり、標準化済み検査ではありません。刺激、物語、正規教示、正式な採点・換算表は収録していません。これだけでRBMTを実施・採点することはできません。

記入例：合図に気づくが、用件を思い出せない

検査観察：「音の方を向くが、依頼された用件が自発的に出ない」。生活目標：「外出予定を確認して準備を始める」。支援：「通知に『予定帳を開く』と表示し、今日の欄を見る」。記録：「通知の確認」「予定帳の確認」「用件の完了」を区別する。最初に必要な援助を入れ、習得に合わせて減らす。

これは架空の生活支援例で、検査の正式な教示や採点例ではありません。5機会中の自力完了回数などを記録し、翌日や別の場面でも確かめます。

解釈を急がないための3点

- ① 年齢別基準への該当と、独居・復職の可否は別の判断です。
- ② 直後と遅延、再生と再認の差は仮説の材料です。記憶の機序を単独で断定しません。
- ③ 並行版を使っても練習効果はゼロとは限りません。実施条件と生活上の変化を併記します。

主な確認資料（クリックで開きます）

日本版RBMT増補版：千葉テストセンター

数井ら（2002）：日本版の有用性の検討

JEED：復職アセスメント資料集（PDF 62–63ページ）

Velikonjaら（2023）：INCOG 2.0 Memory（TBI指針）

Sodaら（2026）：展望記憶リハビリテーションのレビュー

公開情報・抄録・公的資料を照合。正規マニュアル全ページの確認を代替するものではありません。図版・課題内容の複製は行っていません。